

令和7年度 学校運営協議会 議事録

下野市立南河内小中学校

日時 5月13日(火) 9:30~

参加者 <学校運営協議会委員>

齋藤 仁志 様 野口 幸一 様 川田 玲子 様 原 安礼 様
吉田 久恵 様 上野 保久 様
田澤 孝一 校長 岡本 直美 教頭 上野 達也 教頭
高橋 由枝 教諭 黒崎 智照 地域連携教員 阿部 正明 地域連携教員
<地域学校協働活動推進員>
坪山 仁 様 海老原 忠 様

欠席者 田口 浩之 様

会次第

- 1 開会のことば(教頭)
- 2 学校長挨拶(校長)
- 3 自己紹介
- 4 任命書授与(代表受領:齋藤 仁志 様)
- 5 学校運営協議会についての説明 運営マニュアルの確認(教頭)
- 6 学校運営協議会長等の選出
会長 齋藤 仁志 様 副会長 野口 幸一 様
- 7 学校運営協議会年間予定について(教頭)
年間4回予定
- 8 協議

① 教育目標及び学校経営計画(校長) 「学校概要」「学校経営計画」より説明

- ・学校教育目標 開校以来変わらず継続している。
- ・目指す学校像に向け、地域ご家庭のご協力をお願いしたい。
(挨拶、登下校の見守り、行事、安全確保)
- ・テーマ「人とつながり、ふるさととつながり、未来とつながる」
キーワード「つなぐ(すべては子供たちのために)」。
特色ある学校づくりを進める
人権を尊重する態度
基礎基本の習得、思考力・判断力・表現力の育成
体力増進、健康安全に対する実践的な態度
教職員 チーム力で児童生徒に向き合っていく。
前期課程・後期課程それぞれの学びをスムーズにつないでいく。
各教科間をつなぐ
幼小、中高をつなぐ
「スクラップ&リフォーム」「次代へつなぐ」
- ・本年度の重点
<知> 主体的に学習に取り組み学び合う態度の育成
・振り返りの場面設定の工夫

- <徳> 教育活動全体を通じて行う道德教育
今年度から2年間文部科学省の道德教育研究校
・道德の授業におけるねらいの明確化と思考を深める発問や話合いのさせ方の工夫
- <体> 体力の向上
5月体育祭 6月～部活動 夏の大会

②教育課程編成（教頭）

○9年間の学びのつながり

- ・目指す児童生徒像 3つのステージに分けて設定
「基礎をつくる」 「広げる」 「深める」

○教職員の学び 大学教授を招いた授業研修（年2回）

校内授業公開期間の設定（年3回各2週間程度）

学力向上推進リーダー配置校（前期課程 国語 算数）週1度

「頼れる同僚」

前期課程・後期課程の乗り入れ授業、TT 授業

児童生徒の情報共有が活発になる。児童生徒が安心して学習できる。

○道德教育の推進

学校課題「自己を見つめ、よりよい生き方を求め続ける児童生徒の育成

～自律心を育む道德教育の推進～

担任と異なる教員による道德の授業（ローテーション道德）

○異学年交流により情操を養う

共遊、清掃、作業、作品作り、集会

児童生徒総会 5～9年生が参加

○教育相談期間の実施（年2回）

いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期解決 等

○落ち着いた生活のための日課の工夫

前期課程・後期課程の日課調整をし、日課をそろえる工夫

ノーチャイムでの生活

8時から、朝の活動を実施

（読書、タイピング、学習、ボランティアや委員会による読み聞かせ）

③ 学校運営等に関する質疑・応答

○五月病といわれるが GW 後の児童生徒の様子はどうか。

- ・新年度スタート時から学校に足が向かない子が一定数いる。しかし、GW 明けに登校しぶりや欠席は増えていない。
- ・学校に足が向かない子に対しては、教員だけではなく外部職員（SC、SSW 等）も活用し、学校全体で支援している。

○今年度も新採教員は何人かいるのか。

- ・2人。1人は講師経験者であり昨年度も本校に勤務していた。もう一人は3月大学卒の教員。指導教員が後補充を兼ねており、今のところ順調に勤務している。

○不審者事件のニュースがあったが、そうしたことへの対策されているのか。

- ・危機管理マニュアルをもとに取り組んでいる。登下校以外は原則門扉は閉め、昇降口は施錠している。監視カメラを設置している。これらだけですべてを防ぐことはできないが、常日頃から危機意識を持って取り組んでいる。

○読書離れの問題について

読書の効果 言語活用能力 → 学力向上の基礎基本となる。

読書の力を信じて本好きな子供をつくる必要がある→ 教職員がチームでの取組、指導

朝の活動での読書 本は図書室、自宅から持ってきたもの。

- ・高校入試問題でも読解力が更に求められている。(何を問われているのかが分からないと解けない)
- スマートフォンなどメディア関係が、読書離れに及ぼす影響は大きいと言える。
- 書く力は付けられるが、読む力は付けてあげるのは難しい。本を嫌いにさせないことが重要。
- ・石橋高校 ビブリオバトル大会で優勝。おすすめの本を紹介するとよいのでは。
- 職員が児童生徒に、おすすめの本を薦めるなどしてもよい。
- ・昨年度の学校評価から 「学校では読んでいるが家では読まない子が多い」という実態がある。
- 今年度は、毎日「音読カード」に「家読」をプラスし、家庭に啓発を進める。また、図書館便りに、職員のおすすめの本を掲載していく予定である。
- 児童生徒による読み聞かせの企画も、保護者の啓発に繋がればよいが。
- 本を読んでくれるアプリは、読解力に繋がるのか。給食時に、音楽の代わりに取り入れてみるのはどうか。
- ・読解力は、文字を自分で見て読み取り、理解することで身に付く。読んでもらうのは、興味を高めるにはよいと思う。
- 読書が学力向上に繋がると保護者に信じてもらえるようにアピールしていくことが大切では。
- 職員だけではなく、保護者からも推薦する本を出してもらうのもよいのでは。
- 図書委員会の読み聞かせの頻度は。
- ・頻度はあまり多くない
- ・外部ボランティアの読み聞かせは月1回くらい来ているのか。
- ・年9回程度
- ・家で親が読まないのに、子供に読めというのは無理がある。親も、読書をしていかなければならない。本を読むきっかけが大切。
- 学校でいじめがあった場合、加害者の出席を停止するなどの権限は学校にあるのか。被害者は学校に来られなくなるのに、加害者が平気で登校できるというのは腑に落ちないところがある。
- ・校長に権限はあるが、いじめ防止対策委員会での十分な検討、市との相談などが必要。権限を行使することは、かなり慎重でなければならない。他県で過去に出席停止を出した事例もあるが、1週間程度の出席停止であったようだ。
- 読書の話に戻るが、同級生が読んだ本を紹介し合うのもよい。(帰りの会などで友達同士で紹介する。)
- ・物語などをいろいろ読むことで、相手の気持ちを考える力も身に付くのでは。道徳教育にもつながる。
- ・朝の会や帰りの会で、1分くらいでおすすめの本の紹介を毎日行っていくとよいのでは。
- ・図書室で自由に本を借りる時間はとれているのか。
- ・週1回は、メディアセンターで本を借りる時間がある。(家に持って帰ることができる。)

④ 基本方針の承認(教頭)

すべての協議事項承認

9 地域学校協働活動推進委員から

- ・地域の活性化を進めるための本部をつくる。
- ・今年度国分寺地区で先行して立ち上げる。令和8年度から活動を開始する。
- ・地域全体で未来を担う子ども達の成長を支える。
- ・まずは、学校支援に特化した「地域学校協働本部」をつくっていきたい。
- ・学校、学校運営協議会の要望を受けて、本部が支援に動く。(実働部隊)
- ・本部を立ち上げるにあたり、学校の負担が増えることがないように、学校運営協議会の皆様には協力を願う。

- 吉田東小、吉田西小に残された備品等の有効活用はできないのか。例えば吉田東小のなわとび台など。→ 市に確認する。
- ボランティアバンクの存在が大きくなっているように思われる。部活動の地域移行は進んでいるのか。
- 指導者がなかなか見つからないのが実状。学校運営協議会の方々によい方がいたらご紹介いただきたい。令和8年度末には、すべての学校の部活動を地域に移行する予定（土日の活動）

10 事務連絡

- パワーアップアクションプラン 今年度も継続していく。
- 年間行事予定表 行事の案内を随時案内
郵送で学校便りを送付

11 閉会